

Leaf @ 同窓会

No.5

編集・発行

島根大学教育学部同窓会（本部事務室）

松江市西川津町1060 島根大学教育学部内（〒690-8504）

Eメール e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html

電話（新設）0852-32-6297（FAXも同）

支部活動の再興を！ 役員総会開かれる

本年度の同窓会役員総会は、6月8日（土）島根大学教育学部多目的ホールにおいて開催された。有馬毅一郎会長、秋重幸邦学部長のあいさつにつづき、高木敏朗安来支部長が議長となって議事が進められた。総会后講演もあった。

主要な事項は次の通りである。

- 事業報告、決算報告、本会計・特別会計ともに承認された。
- 支部活動の実情（アンケート結果）が報告された。
- 本年度、本部と浜田支部共催による交流会を企画することになった（下記参照）。
- 鳥取支部を設置し、続いて近隣の支部設置もめざすこととなった（下記参照）。
- 福田哲之教授の講演（P3に講演要旨）。



浜田支部・本部共同企画

同窓交流会の開催を計画！！

7月30日、浜田市において神本晃副会長、永見弘浜田支部長、仙田健冶同理事と有馬会長が打ち合わせを行ない、ほぼ下の通り計画した。

- 1月18日（土） ステーションホテル
- 同窓会のトーク&ライブなど
島根大学教育学部特音課程卒業 声楽家、歌・唄がたり 大岩蒼子さん（東京在住）の出演を予定。
- 交流懇談会（会費一部助成）
- 本部役員、学部教員代表も参加
- 浜田支部を中心に、周辺支部にも案内を通知する（後日、関係先へ正式案内）。

支部新設第一弾

鳥取西部支部設立に向けて、準備会開く！！

鳥取県には、かつて支部が設置されていたが、消滅していた。このたび再設置に向けて準備が進められ、まず「鳥取西部支部」設立の発会式が年度内に開かれる見通しになった。

- 8月22日 有馬会長、黒田副会長、齋藤理事長が、米子市にて、境小学校長松田寛彦氏、成実小学校長中尾真氏、根雨小学校教頭神庭賢一氏と準備打ち合わせを行った。
- 「鳥取中・東部支部」についても次年度設立をめざすこととしている。

お知らせ

本部事務室に固定電話を新設しました（上記）。火・金曜日午後以外や電話が出ない場合は、留守電またはFAXをご利用ください。従来の携帯電話は間もなく廃止になります。

「教師力パワーアップセミナー」を支援

今年で5年目となる「教師力パワーアップセミナー」は、学部附属FD戦略センターと学部就職支援室の共催により、毎年、3月・12月の宿泊型研修や、4月～6月の面接練習などを実施してきました。特に、教員採用試験直前には、くにびきメッセにおいて本番さながらの面接練習を行い、その際には、

<面接官のコメント>

本年度5回目のセミナーということで、積み上げられたものを感じる面接でした。学生も意欲的で、誠実に取り組む姿勢は好感が持てました。

自己アピールでは、各自自信を持って語り、それぞれが描く教師像をうかがい知ることができました。

集団討論は、他者の考えを聴きながら、自分の考えを述べ、互いに広がりや深まりを求めようとする良い話し合いとなりました。

終了後に揃って挨拶に来た時の笑顔が印象的でした。本番でも自分の良さを精一杯出して欲しいと思っています。



瀧野眞理子さん
(昭和48年卒業)

毎年多数の同窓会員の皆様に面接官役をお引き受けいただき、また同窓会ご推薦の講師の方々に多大なご協力をたまわってきております。今年は、黒田章義・佐藤友章・瀧野眞理子・竹谷強・中筋弘充・福田郁子・宮本弘和の各先生を、面接官役にご推薦いただき、去る6月26日(水)に実施いたしました。

「教師力パワーアップセミナー」は、学生たちが、教師となるためにあらためて自分自身をみつめなおし、自らの課題を明確化し、意欲を高め、自らを鍛えていく動機づけの場であると考えています。今後ともご協力をたまわれますよう、よろしくお願いたします。

教育学部就職支援室 長谷川 博 史

<学生のコメント>



横原将人さん
(初等教育開発専攻4年)

今回、島根県の本番会場で面接練習を行いました。とても緊張感のある中ではありましたが、本番を想定して練習でき、また現在の自分の到達点を知ることができました。先生方は、とても親身になってアドバイスをくださり、試験を前にすこし気持ちに余裕を感じることができました。今回得られたものを糧に今後さらにがんばっていきたいと思います。

同じ事柄について考えた時に、見方によって見えてくるものが変わること、持っている思いによって見えるものが違うことがある、ということがとても心に残りました。試験が近付き不安なことばかりですが、面接の最後に頂いた、今まで様々な経験を通して考え続けてきたことが自分の自信になるという言葉に心を留め、これからも頑張っていきたいと思っております。



庄本絵美さん
(自然環境教育専攻4年)

模擬面接で就職支援

島大教育 学部OB 学生に心構え伝授

島根大学教育学部 一環。大学の先輩という理由がなせる「血の近い控えた学生たちを支援しよう」と、学部OBの元教員らに模擬面接官になってもらう取り組みを毎年続けている。26日はくにびきメッセ(松江市学園南1丁目)で面接練習があり、学生が教員を自主心構えを先輩から学んだ。

島根大が2007年に始めた「教師力パワーアップセミナー」の

採用試験は多くの都道府県で7月にあり、2次試験に集団面接や討論を実施。この日は、元校長など7人が分担し、教育学部4回生の

55人を指導した。元小学校校長で古志原公民館(同市古志原4丁目)の竹谷強館長(70)は、学校や地域、家庭が連携するための具体策について意見を求め、本番さながらの緊張感の中、学生が真剣に質問に答えた。

自己PRで学生が「子どもと一緒に成長していける教員になりたい」と思いを伝え、竹谷館長は「教育界を背負って立つという高



学生の集団討論に耳を傾ける島根大OBの竹谷強古志原公民館長(右奥)

い理想と、学び続ける優子さん(22)は「支え謙虚さを持って頑張ってくれる周囲の方々でほしい」と応援。小期待に込めたい」と意学校教員を目指す伊藤 気込んだ。

こんにちは

福田哲之さん

島根大学教授
(教育学部言語文化教育講座)

◎先生の書道との出会いについて

父が書道の塾をしていて、もの心ついた時は、まわりは習字。たくさんの小・中学生や近所の方などが習いに来ていました。自分も筆を持ち練習してました。たくさんの作品を見たり、父の出品作を見たり、中国の古い文字にも自然に魅力と興味を持つようになったようです。

◎今の書写教育の現状を

どうご覧になっていますか？
書写教育が孤立しているのが大きな課題です。毛筆の練習と言語活動や日常生活とが分離してしまっています。

また、「お手本通り」をめざしすぎています。文字は本来個性が必要ですが、その子らしい個性を評価してやることです。子どもにとって魅力のある書写になっ

てほしいと思っています。

◎現代は「手書き」が

衰退してきていますが

確かに書写の転換期にあると言えらるでしょう。しかし、「手で書く」活動は学校でも日常でも無くならないし、その魅力はむしろ顕在化していると言えます。活字と違って手で書いた文字は、画一化していません。手書きの美しさへのこだわりは残



福田哲之さん

1959年 島根県生まれ、1981年本学小学校教員養成課程卒業、現在教育学部教授。昨年度、第1回「教育振興奨励賞」を受賞。(「同窓会誌64」参照)

◎情報化社会の中で、人間と文字のゆくえは？

長い「無文字社会の歴史」を経て、人間が文字を持った時代、文明のほころびが出てきました。文字は人間に欠かせないものですが、P・Cにみられるように莫大な情報があふれ出すとそこに、文字を持つマイナス面も出てきています。文字は当然残り、広がります。どう使



役員総会における講演の様子

講演要旨

文字書写の歴史 -中国出土文字資料を中心として- 福田哲之

私は中国古代の遺跡や墳墓から出土した文字資料を中心に、漢字の書体変化のプロセスやその要因について研究しています。

漢字がいつ頃成立したかは、まだよくわかっていません。現在確認される最古の漢字は、殷代後期(紀元前14~11世紀)の甲骨文ですが、甲骨文は決して原初的な漢字ではなく一定の発展を遂げた段階を示しており、多くの研究者は漢字の起源はさらに遡ると考えています。いずれにしても漢字は少なくとも三千数百年以上の歴史をもっているわけです。

最初期段階の漢字は、ものの形をかたどった象形文字であったと考えられており、甲骨文にも、なお濃厚な象形性を認めることができます。この象形文字が長い年月をかけて簡略化・記号化されて、私たちが使用している標準書体の楷書が成立しました。

楷書の成立時期についても、資料上の制約から長らく謎とされてきましたが、近年の新資料の発見によって、楷書の発生は従来推測されていたよりもかなり早く、後漢末から三国時代、つまり2世紀末から3世紀

はじめの頃までさかのぼることが明らかとなりました。

それではなぜこの時期に楷書が発生したのでしょうか。楷書発生要因としてとくに注目されるのは、竹簡や木簡に代わって紙が急速に普及していく時期と楷書の発生時期とがちょうど前後して重なり合っている点です。竹簡や木簡のような幅1センチにも満たない細長い空間から、紙という四方への広がりをもつ空間への変化が、新書体である楷書の発生をうながしたと考えられます。

このように漢字は書写用具からも大きな影響を受けて変遷してきたわけですが、ここで留意されるのは、近年のワープロやパソコンの急速な普及による手書きからキーボードへの転換です。手書き以外の方法で文字を書くという言語活動の普及は、漢字の歴史上はじめて経験する全く新たな事態です。この変革が私たちにどのような功罪をもたらすのか。手で文字を書くという言語活動の意義を、多角的な視点からあらためて問い直してみる必要があるのではないのでしょうか。

平成25年

10/12日(土)

第7回島根大学

ホームカミングデーに

おでかけ下さい!!

教育学部・同窓会企画のホームカミングデーは、島根大学全学企画（松江キャンパス）のホームカミングデーに引き続き、次の日程で開催します。

今年度は、卒業生をパネラーとして迎え、「新しい教育の風」をテーマに語り合いたいと思います。皆様お誘い合わせの上、ご参加いただけますよう、ご案内いたします。

全学企画

日時 10月12日(土) 13:00~15:00

場所 島根大学ホール

内容 ●学生活動報告会 (13:10~14:10)

●第1回しまだいユーモア連歌大賞発表 (14:10~14:40)

●大学近況報告 (14:40~15:00)

教育学部
同窓会

共同企画

卒業生が語る「新しい教育の風」

時間 15:30~18:00

会場 教育学部5F 多目的ホール

コーディネーター

藤原恵子 氏 (松江市立大野小学校校長)

平成7年3月、島根大学大学院教育学研究科学校教育専修を修了。平成8年安来市立能義小学校教頭、平成19年出雲市立鶴鷺小学校校長等を経て現職。島根県社会教育委員、松江市社会教育委員、松江市子ども・子育て会議副委員長、島根県特別支援学級設置校長会事務局長、湖北白鳥学園代表校長 等。



報告者

大坂慎也 氏 (島根大学教育学部附属小学校教諭) 「映像やICTを活用した新しい授業づくり」



昭和50年生まれ。平成10年3月、島根大学教育学部中学校教員養成課程社会専攻卒業。平成12年4月より島根県公立学校教員として、松江市立城北小学校、邑南町立高原小学校、松江市立中央小学校に勤務し、平成24年4月より現職。島根県社会科教育研究会、島根社会科懇話会、社会科教育研究室同窓会などの事務局も努め、社会科教育の振興・研究に携わっている。

長谷 剛 氏 (志桜塾主宰)

「機能分析の視点から考える、新しい国語指導の視点」



昭和47年島根県益田市生まれ。平成7年3月、島根大学教育学部小学校教員養成課程卒業。卒業後、公立学校採用試験に合格せず4年間講師として島根県内をさまよう。その後、正式採用となり12年間島根県内の普通高校を渡り歩く。平成23年4月、「自分にしか伝えられないことを伝えたい」という使命感から、公立学校教諭を辞職。フリーの国語教師として再出発。現在、松江市北田町にて志桜塾を主宰している。

大谷淳司 氏 (奥出雲町立亀嵩小学校教頭)

「小学校外国語活動の新しい実践と研究」



昭和60年3月、島根大学教育学部養護学校教員養成課程卒業。平成8年、島根県教育庁義務教育課指導主事、平成23年より現職。義務教育課在任中、現学習指導要領への教育課程移行に関わる職務に携わり、小学校外国語活動について伝達講習を県内全域で行った。平成22年度より「外国語活動の会」を立ち上げ、県内外の参加者とともに外国語活動に関する実践的な研究を続けている。

※この企画には、卒業生だけでなく、教員・学生など、ご希望の方はどなたでも参加できます。
問い合わせは、0852-32-6107 (教育学部 作野広和)